

お薬のしおり

No.231 (2021.9)

東京医科大学病院 薬剤部

手術・検査前に休薬が必要となるお薬について

みなさんは手術や検査などを受ける前に（休薬一時的に服用を中止すること）が必要となるお薬があることをご存知でしょうか？
今回はそのようなお薬についてご紹介します。



○休薬が必要となるお薬はどのようなもの？



①血液をサラサラにするお薬

主なものは抗血小板薬、抗凝固薬と呼ばれます。狭心症や心筋梗塞を経験された方、不整脈、脳梗塞、静脈血栓塞栓症などの診断を受けた方が飲んでいることの多いお薬です。具体的にはバイアスピリン®、ワーファリン®、リクシアナ®などがあります。このほかにもイコサペント酸エチル®、ロトリガ®などの脂質異常症のお薬の一部にも血液をサラサラにする作用があります。これらのお薬を手術の前に飲んでしまうと、手術の際に血が止まりにくくなり手術中の処置などに影響があるため休薬が必要となります。お薬の種類や手術、検査や処置の種類により休薬の必要性やその期間は変わってきますが、お薬の中には血をサラサラにする効果が薄れるまでに時間がかかるものもあり、手術日の7～14日前から休薬が必要なものもあります。ただ、勝手に休薬すると血液が固まりやすくなり、血栓症を起こす恐れもありますので自己判断で中止はせずに、主治医等の判断、指示を守るようにしましょう。

②女性ホルモンを含むお薬や骨粗鬆症治療薬

経口女性ホルモン製剤は、婦人科疾患の治療や経口避妊薬として用いられるお薬です。商品名としてはプレマリン®、ルナベル®、マーベロン®などがあります。手術の後は安静のため普段よりも横になっている時間が長くなります。ただ、横になっている時間が長くなると、足の血管の中の血の流れがゆっくりになり血が固まりやすくなります。また、女性ホルモンの一種であるエストロゲンは、肝臓にはたらきかけ、血を固まりやすくする物質の合成を促進する作用があります。そのため、エストロゲンを含むお薬を休薬せず

に手術を行うと足などに血栓ができやすくなり、血栓症を引き起こすことがあります。このような症状の発症の可能性を少なくするために、これらのお薬は手術の前に休薬が必要となります。経口女性ホルモン製剤は手術前 4 週間前から、術後も 2 週間と長期間に必要となることがあります。また、エビスタ®やビビアント®など一部の骨粗鬆症のお薬もエストロゲンと同じような作用があるため、経口女性ホルモン製剤より短い期間ですが休薬が必要となることがあります。

③血糖降下薬

メトホルミン®などのビグアナイド系糖尿病治療薬は、手術や検査に伴う体調の変化によって乳酸アシドーシスという症状があらわれることがあります。そのため糖尿病の病状にあわせて休薬が必要となります。

また、カナグル®、フォシーガ®、ジャディアンズ®などの SGLT2 阻害糖尿病治療薬は、手術等による体調の大きな変化や絶食の影響による糖尿病性ケトアシドーシスを発症することがあります。この症状の発症予防のため、少なくとも手術の 3 日前から休薬する必要があります。

○休薬が必要となるお薬の確認方法は？

今回ご紹介したお薬以外にも、事前に休薬が必要なお薬や、事前の休薬は不要でも手術や検査の当日には休薬する必要のあるお薬もあります（一部の糖尿病のお薬や血圧のお薬など）。長期の休薬が必要なお薬を飲んでいる場合、入院前からの休薬が必要となりますので、手術の予定のある方は早めに主治医の先生に今飲んでいるお薬を伝えるようにしましょう。また、手術を受ける病院以外から処方されている薬やドラッグストアで購入する薬、健康食品にも休薬が必要なお薬が含まれている可能性があります。主治医の先生などに内服薬を聞かれた際にはお薬手帳などを用いて正確に情報を伝え、休薬の指示があった場合には必ず守るようにしてください。休薬が必要なお薬が休薬できていなかった場合、安全性を考慮して手術が延期となることもあります。もし手術を受けることが決まった後、入院された後、に普段飲んでいる薬を思い出したり、言い忘れに気づいた場合には主治医の先生や看護師、薬剤師にすぐに伝えるようにしてください



～患者さんからの積極的な情報提供はとても大切です。

安全な手術、検査実施のためにもご協力をお願いします～